

「好きこそものの上手なれ」とは・・・

昔のことわざで、「好きこそものの上手なれ」がありますが、日頃の子どもの様子を
見ていると、「なるほどなあ」と感じる事があります。

誰でも好きでやることは一生懸命になって、それに関して勉強したり工夫したりするので、
自然に上達するものである、と辞典にも書かれていますが、この事は、科学的にも正しいと言われ
ています。

好きな事をしている時は、意欲的になるホルモンの「ドーパミン」やリラックスホルモンの「セロ
トニン」などが多く分泌され、脳は高度に活性化します。

脳が活性化している時には、「苦しい」「大変」などとは思わず、むしろ没頭してしまうくらいです
よね。

しかし、自分の好きな事を見つける事はなかなか難しいように思います。

特に、子どもにとって、本当に心からやりたい！と思えるのか、見極める必要があります。

やりたい！と思えるには、どうすればよいのか、これは保育の現場でとても大事な事です。

大五京・大五洋では、3歳児クラスから文字遊びを取り入れて、50音が読めるようにと工夫をし
ていますが、実際のクラスの様子を見ていると子ども達が楽しんでいる様子をよく目にします。

それは、ことば遊びだったり、カード選びだったり様々ですが、何よりも子どもが集中する内容で
ある事が大切です。

繰り返しの練習や面白くない内容であれば、すぐにつまらない、とシャットダウンしてしまいます。

その逆でたのしくなってくると、どんどん子ども達の方から言葉やアイデアが出てきて、それが文
字へとつながっています。

そのような状況のクラスは、すでに99%のお子さまが50音を読めるようになっていました。

文字遊びの時間が、「好きこそものの上手なれ」をそのまま成果として出ているように感じられた
一場面でした。

今、出来ない事があっても、1つのきっかけが子ども達の知識の成長へとつながっていきますので、
焦らず見守ってあげてくださいね。